

アナモルフォーシス・

かく えが ふしぎな隠し絵を描こう

物を見るときに、どこから見るかで、見え方が違ってきます。物を立体的に見せる方法として遠近法という手法があります。これは、手前を大きく奥の方を小さく描くことによって平面の中に、奥行きを出しているのです。

さて、右の絵を見てみよう。真ん中に、つつのような鏡を置くと……あら不思議、科学館のひかる君が現れます。

遠近法を上手に使い、ある視点から見たときにその絵の意味が分かるようにしたものが「^{ひず}み^え絵（アナモルフォーシス）」というふしぎな絵なのです。いくつかの、ふしぎな絵の描き方を楽しく学習し、自分だけのアナモルフォーシスを作ってみよう。



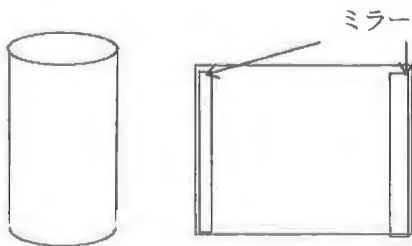
◎ふしぎな絵を見るための道具を作ろう

材料〈ミラーペーパー、両面テープ、お茶の空き缶〉

道具〈はさみ、コンパス〉

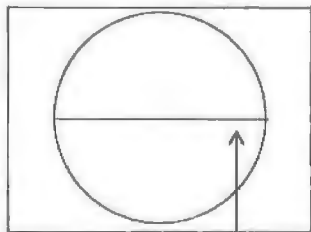
①鏡のつつを作ろう

ミラーペーパーをお茶の空き缶に大きさに合うように巻き付けてつつにしよう。



お茶の空き缶に巻き付け、しっかりとつつになるようにする。

②鏡の円すいを作ろう。



ハサミで切り込みを入れる



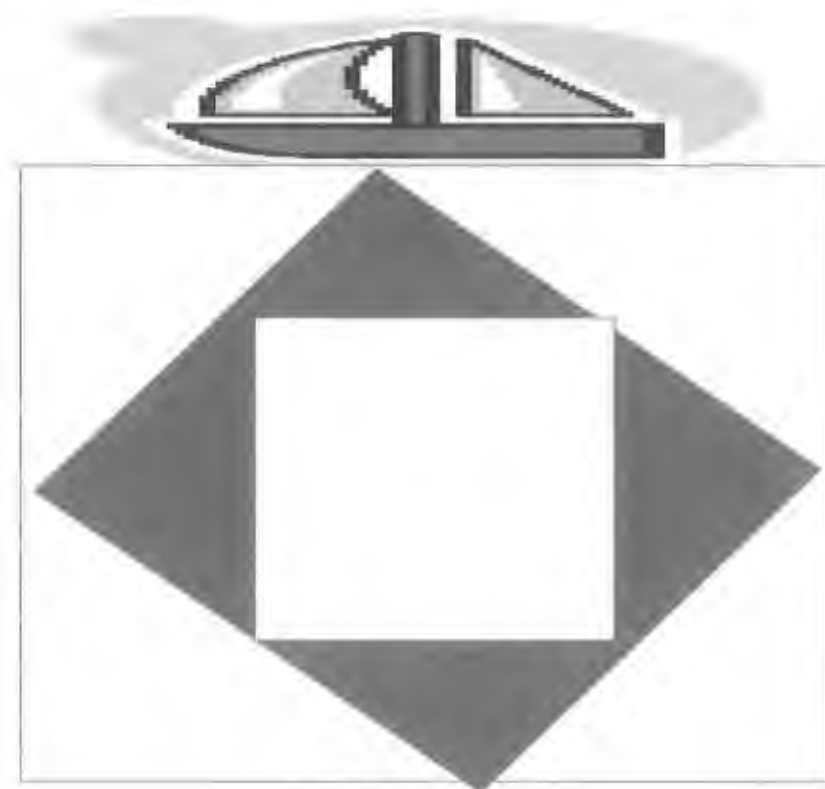
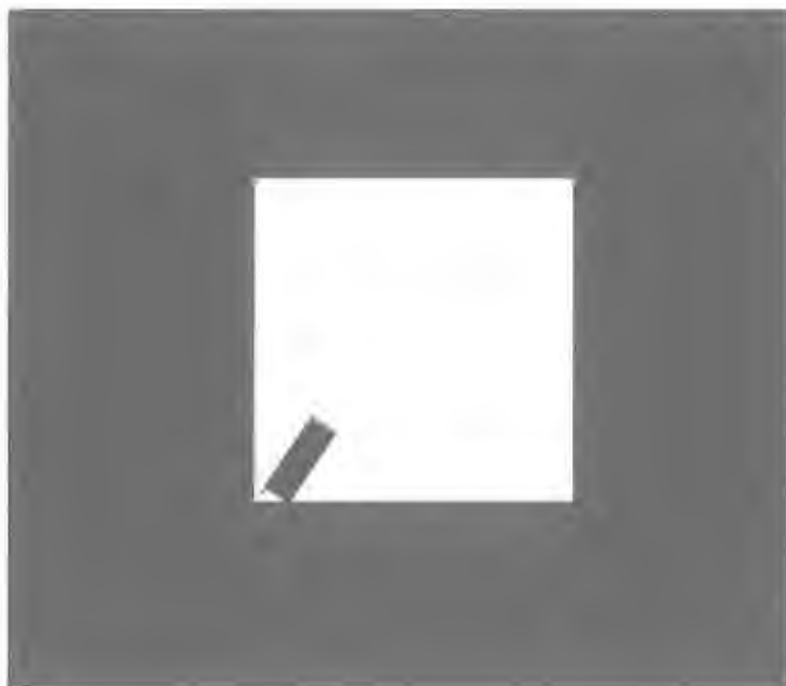
・ミラーペーパーの裏に、コンパスで半径5 cmの円を書いて、丸く切り取る。

・コンパスの針をさしたところを通る線を1本線引き ハサミで半分に切る。

・針のあとの回りで丸めて、山のような形を作り、重なりが2 cmぐらいになるようにはしを両面テープでとめる。

先が、きちんととがった形になるように工夫しよう。

◎四角の真ん中に、つつの鏡、次に円すいの鏡をおいてみよう。
どんな形が見えるかな？



◎自分で、工夫して楽しい隠し絵を作ってみよう。